News Letter
ニュースレター

名古屋銀行
Bank of NAGOYA

2022 年 12 月 21 日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約締結について
～富士丸産業株式会社のサステナブル経営をサポート～

名古屋銀行（頭取 藤原 一朗）は、富士丸産業株式会社（代表取締役 藤岡 稔丸）と「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

当行は、今後もグループ一体となり、銀行の既存のビジネスモデルに捉われない持続可能な収益機会の創出及び付加価値の高いサービスを提供し、さまざまなお客さまの経営課題解決を通じて地域社会とともに未来を創造してまいります。

記

1. 契約締結日　2022 年 12 月 21 日（水）
2. 融 資 金 額　100 百万円
3. モニタリング期間　5 年
4. 資 金 使 途　事業資金
5. PIF 評価書　添付資料をご参照ください

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記 URL をご参照ください。
https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html

6. 富士丸産業株式会社の概要

代　表　者	藤岡 稔丸
本社所在地	愛知県海部郡飛島村大字梅之郷字中梅 59
業　　種	排水処理設備設計、設置工事、賃貸業
設立年月日	1982 年 5 月 7 日

＜記念盾贈呈式の様子＞

富士丸産業株式会社　代表取締役　藤岡 稔丸 氏
株式会社名古屋銀行　港エリア エリア長 兼 港支店長 金森 保憲

※写真撮影時のみマスクを外しております。

参考：「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の取り扱い開始について
https://www.meigin.com/release/files/20220111meigin_PIF.pdf

以　上

ポジティブインパクトファイナンス評価書

～　富士丸産業株式会社　～

2022 年 12 月 21 日
株式会社名古屋銀行
法人営業部　法人コンサルティンググループ

はじめに

株式会社名古屋銀行は、富士丸産業株式会社に対し、めいぎんポジティブインパクトファイナンス（以下、めいぎん PIF）を実行した。

本件取組にあたって、株式会社名古屋銀行は国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則り、富士丸産業株式会社の企業活動における包括的なインパクトを分析し、充実したサステナビリティ経営に向けた KPI を設定した。

借入人概要

借入企業	富士丸産業株式会社
所在地	愛知県海部郡飛島村梅之郷中梅 59
従業員	33 名　※2022 年 11 月末時点
売上高	810 百万円
事業内容	排水処理設備の設計、設置工事、賃貸、保守、販売

融資条件概要

融資形態	証書貸付
融資金額	100,000,000 円
資金使途	設備資金
融資期間	20 年

目次

1. 企業情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
① 会社概要
② 沿革
③ 事業系統図
④ 社訓

2. 事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
① 事業の流れ
② 施工事例
③ ポンプ整備

3. その他の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
① サービス品質の向上
② CSR 活動
③ 寄付・寄贈活動
④ SDG s 宣言

4. インパクトの特定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
① インパクトマッピングによるインパクト分布
② インパクト分布図
③ 国内のインパクトニーズ

5. 測定する KPI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
・ポジティブインパクトの拡大
・ネガティブインパクトの縮小

6. インパクト管理体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

7. モニタリング方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

8. 総括・・22

1.　企業概要

①会社概要

会社名	富士丸産業株式会社
創業年月	1957 年 5 月
代表取締役	藤岡　稔丸
本店所在地	愛知県海部郡飛島村梅之郷中梅 59
従業員数	33 名　※2022 年 11 月 30 日時点
決算日	2 月末日
事業所一覧	本社及び本社工場　：愛知県海部郡飛島村梅之郷中梅 59 弥富リサイクルセンター事業所：愛知県弥富市楠 3 丁目 24-2 飛島機材センター　：愛知県海部郡飛島村梅之郷宮東地内 長島機材ヤード　：三重県桑名市長島町葭ケ須地内 整備センター アクアス　：愛知県海部郡飛島村梅之郷中梅 29-2

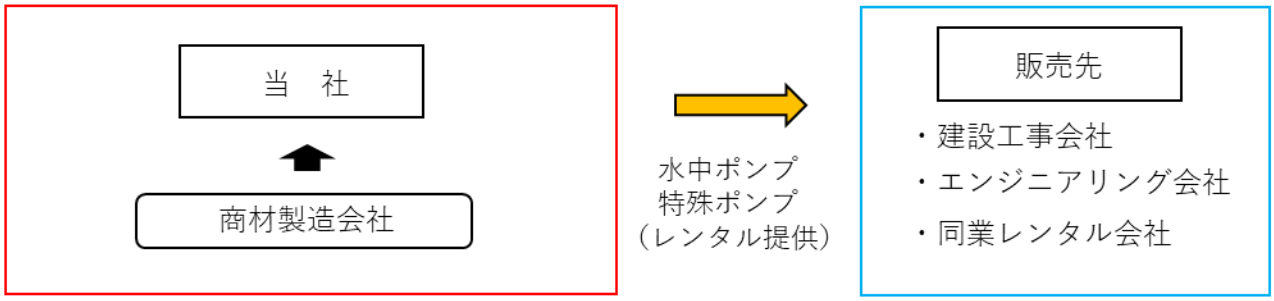
【 沿 革 】

昭和32年5月	昭和32年　創業者である藤岡多丸が、名古屋市港区稲永町にて、 産業用モーター修理業を開始し、スター電重機工業所を開業。
昭和39年11月	名古屋市港区遠若町に工場を移転し、モーター修理の他、水中ポンプの 修理を開始する。 富士丸産業合資会社を設立し、スター電重機工業所の業務内容を継承。
昭和57年5月	富士丸産業株式会社を設立し、富士丸産業合資会社の事業を継承。 産業用機械修理業の他、水中ポンプを中心とした機械器具のレンタル事業を 本格化。
昭和61年4月	取締役　藤岡経丸が代表取締役に就任。創業者である藤岡多丸は取締役会長に 就任（平成16年退任）。
平成元年4月	愛知県海部郡飛島村に新工場及び事務所を建設し、名古屋市港区遠若町より 移転。レンタル向け水中ポンプの保有台数が500台を超える。
平成9年5月	建設業許可を取得し、保有レンタル機材の機器設置工事や配管工事を開始。 それに伴い、現在も主力レンタル商材である大型の水中ポンプを拡充。
平成10年	建設現場向けの濁水処理設備、中和処理設備のレンタルを開始。
平成11年	愛知県飛島村内に飛島第二ヤードを開設。レンタル商材の濁水処理設備、 中和処理設備の整備場所、保管場所を拡充。
平成13年	愛知県飛島村内に飛島第三ヤードを開設。仮設配管材や、建設産業用 レンタル機械の保管場所を拡充。
平成18年	土壌汚染対策工事に対応した、重金属類を含む排水処理設備（重金属類、VOC、 油分等）のレンタルを開始。
平成20年8月	愛知県名古屋市中川区に中川事業所を開設し、 レンタル商材である、土壌汚染対策工事向け排水処理設備の メンテナンス部門を運営。
平成23年3月	愛知県飛島村に飛島機材センターを開設（敷地面積1000坪）。 飛島第二ヤードと飛島第三ヤードを飛島機材センターへ集約。

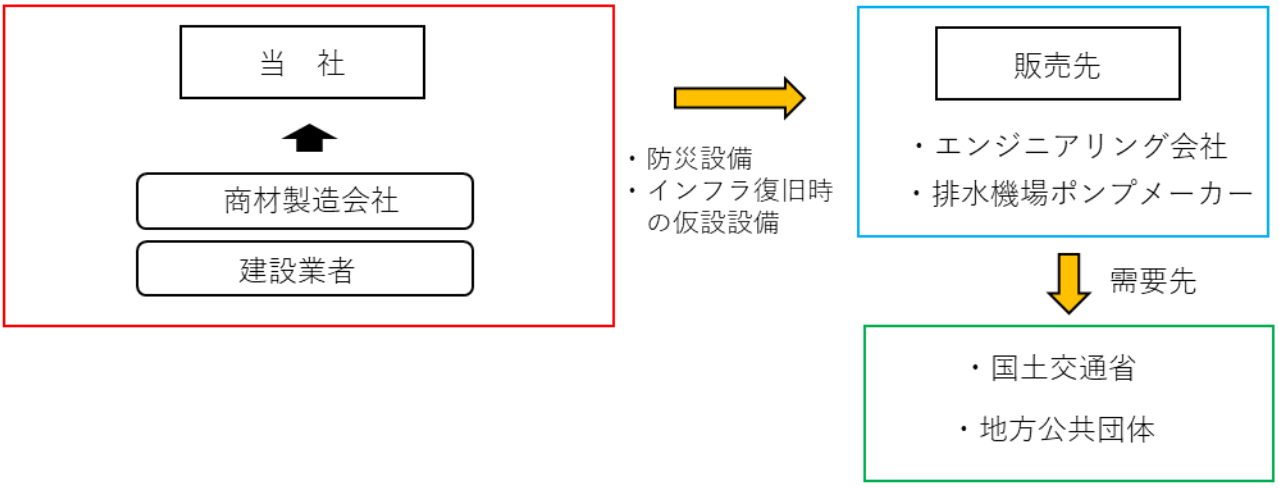
平成25年3月	取締役　藤岡稔丸が代表取締役に就任。前代表取締役　藤岡経丸は会長に就任。
平成25年3月	東日本大震災で被災した福島第一原子力発電所の原子炉冷却用に当社が保有する超高揚程水中ポンプを出荷（レンタル機を売却）。 東北各地では、震災により破損した排水機場・ポンプ場に当社保有の大型水中ポンプが仮設応急インフラ設備として運用される。
平成26年	インフラ設備である排水機場・ポンプ場で使用する仮設排水ポンプ設備の（レンタル商材）の導入実績が全国各地で本格化。 仮設応急インフラ設備や防災（水害）対策設備として運用される。
平成26年1月	本社工場敷地内に新工場（4工場）を建設し工場増設。 これに伴い中川事業所を本社工場へ統合。
平成26年7月	三重県桑名市長島町に長島機材ヤードを開設（敷地面積1000坪）。 大型水中ポンプに接続し使用する、大口径の仮設配管材の保管場所を拡充。
平成28年11月	本社工場敷地内に、新本社事務所を建設。
平成29年4月	愛知県弥富市に弥富リサイクルセンター事業所を開設。 土壌汚染洗浄設備（リサイクルプラント）の運営管理を行う。 （株式会社ダイセキ環境ソリューション殿　弥富工場敷地内）
平成30年	インフラ設備として設置されている、行政保有の水中ポンプのメンテナンスや整備修理業務を本格開始。
令和3年4月	愛知県飛島村に整備センター「アクアス」を開設（敷地面接400坪）。 大型水中ポンプの整備場所を拡充し、大型水中ポンプ用の試験設備を設置。 レンタル向け水中ポンプの保有台数が1200台を超える。
令和5年後半（予定）	愛知県飛島村、本社工場北側に取得した用地に新工場（仮称：ミライオ）を建設（敷地面積650坪）。 インフラ設備である行政保有の水中ポンプの整備施設の拡充、仮設排水ポンプ設備用の商材の拡充を計る。

③事業系統図

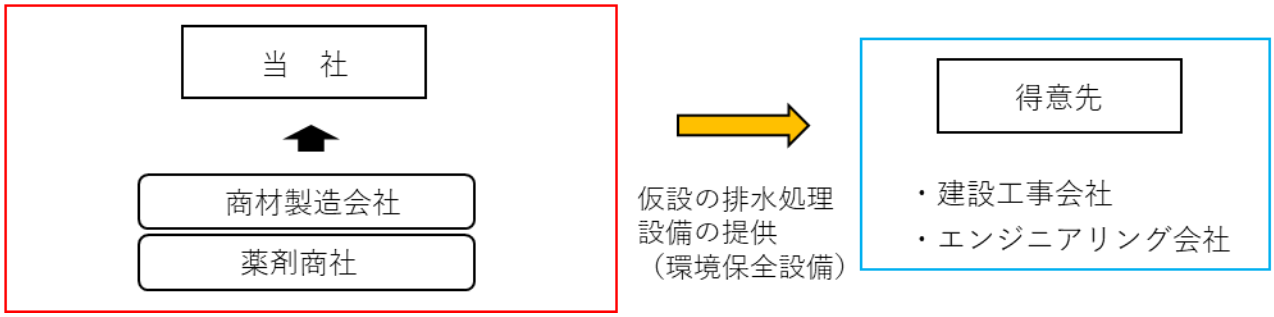
●水中ポンプ　レンタル事業



●仮設排水ポンプ設備事業



●水処理設備　レンタル事業



④社訓

反省と感謝

社員は、常に反省の心を忘れることなく、

日々感謝の気持ちを持って企業活動を行う

.

当社は「信頼される技術」の提供をテーマとして上記社訓を掲げ、創業当初は産業用モーターの修理業としてスタートし、その後、世の中に「水中ポンプ」というものが誕生してからずっと、水中ポンプと向き合い、経験、技術、ノウハウを蓄積してきた。

現在ではポンプ単体だけでなく、各種の仮設排水処理設備や大口径仮設用鋼管を使用した仮設排水ポンプ設備工事一式まで一貫した対応ができる体制を構築し業界内での地位を確立している一方で、社訓を忘れることなく、日々の品質・技術の向上に努めている。

2.　事業内容

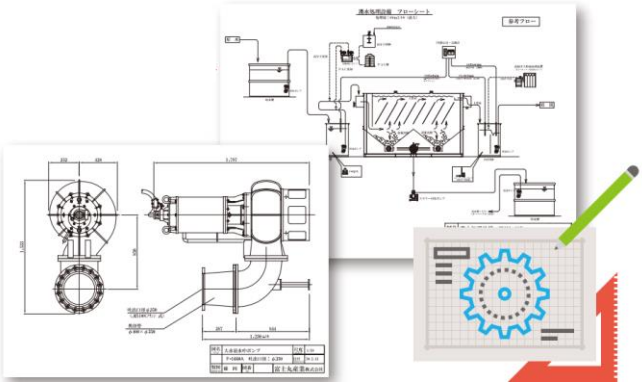
当社は、全国各地に多種多様な水中ポンプ、モーター機械のレンタル・リースを行っており、他社では少ないような大型ポンプや土壌汚染水処理設備等も幅広く取り扱っている。

仮設ポンプ設備のリース業務は、建設期間中の工事現場や特定作業を行う工場にて活用されれば顧客のコスト抑制、作業開始までのリードタイム短縮に寄与し、災害対策として豪雨の多い時期に活用すれば水害を最小限に抑え、安心して過ごせる環境づくりに貢献することとなる。

また、当社は単にポンプを提供するだけでなく、顧客のニーズに合わせたポンプ設備のトータルプランニングを考え、より安定的で効率的なポンプ設備計画の提案を、自社で行うことができる一貫体制が整っている。

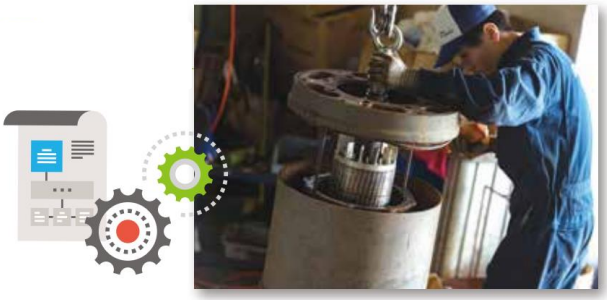
加えて、工事現場や工場から発生する濁水や重金属汚染排水を浄化する処理施設のプランニング、設置工事も行っており、『水質を守る』という地球環境にとって重要な業務であることを自覚しながら、日々の業務に取り組んでいる。

①　事業の流れ



【設計・プランニング】
お客さまとの打合せにより、最適な設備計画を作り上げます。
計画書類の作成や図面の作成など、設備設置に向けて、細部までプランニングを行います。

【設置工事】
ポンプや水処理設備の設置は、当社スタッフを中心として行います。
施行計画に基づき、安全かつ迅速に作業を進めていきます。



【保守・メンテナンス】
当社では、永年にわたるポンプの整備技術を生かし、保有機械の整備のみならず、お客さまの保有している各種ポンプの整備や修理業務も行っています。

② 施行事例

（1）土壌汚染水処理設備

【例：VOC＋重金属類処理設備】

【例：油分を含んだ地下水の処理設備】

土壌汚染対策工事における仮設の排水処理設備を取り扱っている。処理対象となる汚染物質の内容・濃度・処理必要量をヒアリングし、最適な設備を提案することが可能で、設計から施行、メンテナンスまでトータル対応を行う。処理対象物質として、揮発性有機化合物（VOC)、鉛、ヒ素などの重金属類、油分を含んだ地下水等の実績を持つ。

（2）濁水処理設備

【FMJ2-10D 型（標準処理能力：10 ㎥/Hr)】

【FMJ2-60D 型（標準処理能力：60 ㎥/Hr)】

建設工事やダム工事等において、コンクリートの材料となる骨材製造過程で使用する洗浄水や、ダム堤体工事のときに出る洗浄水、仮設備のコンクリートミキサ、バケット等の洗浄水といった多くの排水の発生は、景観の悪化、水産生物の生態系の被害、土壌の透水性低下に伴う農作物の育成の阻害など様々な悪影響の原因となり得る。

これらの排水を規定の水質になるまで処理し、またその処理水の再利用を図ったり、処理場へ埋め立てるなどの一連の作業を行う濁水処理設備も取り扱っている。

(3) 中和処理設備

【PH 処理設備（ユニットタイプ）FPH-20】

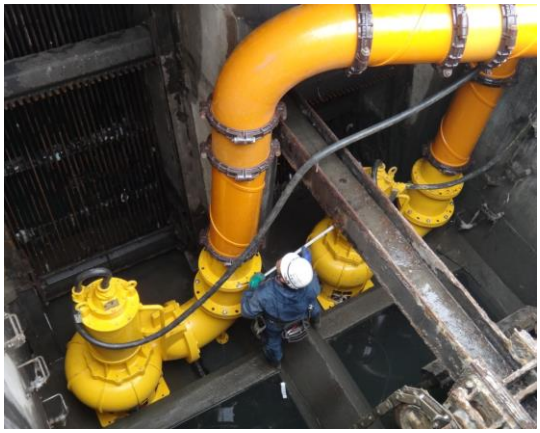
【アルカリ中和処理設備 100 ㎥/Hr】

各種製造過程で排出される工場廃液などの酸性やアルカリ性の廃液を中和処理し、河川放流や二次利用が可能な水へと生まれ変わらせることで、地球環境への負担を軽減した経済活動を支援している。

(4) 水中ポンプ設置工事

【排水機場改修に伴う仮設排水ポンプ】

【災害復旧用 仮設大型排水ポンプ】



【豪雨対策用 仮設大型排水ポンプ】

【浚渫用水中サンドポンプ】

既存のポンプの改修期間中、豪雨災害後の復旧時および事前対策時、船の航路や泊地の整備・維持を行うために改定の土砂をすくい取る浚渫工事時といった様々な場面で水中ポンプの仮設工事に携わっている。レンタル器材として保有しているポンプの設置工事だけでなく、仮設用軽量鋼管による配管工事、配線工事も行っており総合的な対応が可能である。

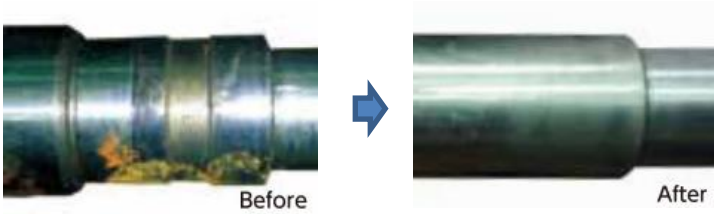
③ ポンプ整備

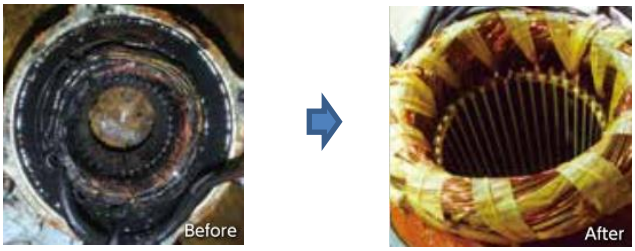
長年培ってきたポンプの整備技術により、自社が保有するポンプの整備のみならず、ポンプメーカーや工場からの依頼により、様々な種類のポンプ修理や整備も請け負っており、依頼主がポンプをより長く使えるための業務に努めている。

【ショットブラスト設備】

ワーク寸法 1600×1600㎜ の大型ブラスト設備で、大型水中ポンプのブラストが可能。

【モーター修理・シャフト修理】





水中ポンプモーターの巻き直し、乾燥設備によるコイルの乾燥を行っている。なお、ポンプモーター以外の産業用モーターの修理も引き受け可能である。

【その他】

他にも下記修理・整備の取組実績がある。

- インペラー・ケーシング、ケーシングカバー、メカニカルシール、オイルシール、ベアリングなどの部品交換
- シャフト修理（溶射加工）
- 特殊樹脂による対摩耗加工（ケーシングやケーシングカバーの再生）
- インペラーのギャップ調整
- 吹き付け塗装整備による塗装
- ポンプ試験設備による水量・水圧試験、試験データの作成
- ポンプ運転に必要となる各種制御盤の製作

3.　その他の活動

①　サービス品質の向上

（1）ポンプ試験設備

同社はレンタル事業者では数少ない、大型ポンプにも対応可能な試験設備を保有している。あらゆるメーカーのポンプ試験を行うことができ、製造時のメーカー試験データと比較することでポンプの状態を確認したり、ポンプの設置予定場所において目的通りの環境が作り出せるのかを事前に分析する等、同社のサービス品質を向上させ、他社差別化に繋がる重要な要素となっている。

(2) 表彰受賞歴

上記ポンプ試験場の保有に加え、50 年以上の長い業歴で培ってきた知識・技術力・ノウハウを駆使して常に品質を向上させ続けてきた同社事業は、模倣困難性が高いレベルまで達しており業界内での地位を確立している。結果として、取引先からの信頼も厚く、下記の通り数多くの表彰実績がある。

平成 22 年	【株式会社鴻池組】　優良職長表彰
平成 23 年	【株式会社大林組】　協力会社優良社員表彰
平成 25 年	【株式会社熊谷組】　功績会社表彰
平成 26 年	【国土交通省中部地方整備局】　専門工事業者表彰
	【株式会社熊谷組】　優良職長賞
	【株式会社鴻池組】　社長表彰《創意工夫》
平成 27 年	【株式会社熊谷組】　優良職長表彰（本社表彰）
平成 28 年	【株式会社熊谷組】　社長表彰《功績賞》
平成 29 年	【国土交通省中部地方整備局】　専門工事業者表彰
平成 30 年	【株式会社鴻池組】　優良賞（個人）
令和 2 年	【株式会社熊谷組】　職長賞（個人）
令和 3 年	【株式会社熊谷組】　安全衛生優良賞

② CSR 活動

岐阜県海津市にある大江川にて、真夏になると「アオコ」という水草の一種が大量に発生し、枯れて腐った際に放つ異臭が毎年問題となっていた。問題解決にあたり最も有効な対策として考えられたのは「川の水温を下げてアオコを発生させない」ということであったため、真夏でも水温の低い農業用水を大江川へ大量に送って水温の上昇を防ぐことで、アオコの繁殖を抑え一定の効果が出ている。

加えて、真夏の間だけの仮設工事という手段を取ることで、依頼主の出費を低減させることもでき、当社のレンタルという業務形態と技術力は、こうした形で直接的にポジティブインパクトを生んでいる。

③ 寄付・寄贈活動

2019 年 12 月、当社は地域貢献活動の一環として、名古屋市内の中学校へ吹奏楽部が使用する楽器として、太鼓（打楽器）をを寄贈している。また、2022 年 1 月には名古屋市内の学童保育施設の新規建設費用寄付活動に賛同し寄付も行った。

当社は今後ともこのような活動を通じて、地域に貢献できる企業になるための努力をさらに続けていく考えであり、積極的に社会貢献活動を行おうとする企業文化を醸成し続けている。

④ SDGｓ宣言

富士丸産業株式会社　ＳＤＧｓ宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」に賛同し、
ＳＤＧｓの達成に向けた取組みを行っていく事を宣言します。

2020年9月25日

富士丸産業株式会社　代表取締役　藤岡　稔丸

SDGsの達成に向けた取組み

公共インフラの発展に寄与

河川工事や港湾工事などの公共インフラ整備事業を支える企業として、当社の技術、ノウハウ、そして国内にも数少ない特殊な保有機材を通じて、お客様のお役に立てる企業であり続けます。

《具体的な取組み：各種仮設排水ポンプ設備工事の受注を可能とした体制構築》

地域貢献活動

地域の安全・安心のために、仮設排水ポンプ設備事業による豪雨防災への取組みや、地域教育・地域行事に積極的に協賛・参加していくことを通じて、地域の発展に貢献してまいります。

《具体的な取組み：寄贈型私募債「未来への絆」の継続的な取組み、地域のお祭り行事の協賛並びに積極的な参加》

働きやすい職場環境への取り組み

従業員が常にレベルアップできる職場環境を整備していくとともに全従業員の幸福度アップを図ってまいります。

《具体的な取組み：各種資格・免許の取得支援》

環境対策

排水処理設備を通じて、水環境の保全に取り組み、環境対策に貢献してまいります。

《具体的な取組み：従業員向け環境対策勉強会を定例開催、薬剤・バイオ剤を用いた環境負荷の少ない新工法の開発及び実施》

Pumps!
FUJIMARU
×
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

当法人は事業活動を通して、元々持ち得る高い社会貢献性に加えて、公共インフラの発展や地域貢献活動を行うとともに、従業員の働きやすい環境づくり、地球環境への対策活動を行っていくことを宣言しており、今般のめいぎんポジティブインパクトファイナンスについても、インパクト分析を踏まえ、ＳＤＧｓ宣言と共通した分野でのＫＰＩを設定する。

4.　インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

名古屋銀行は事業性評価におけるビジネスモデル（非開示）により富士丸産業株式会社の主要、関連業種を特定し、UNEP　FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。富士丸産業株式会社の業種カテゴリは多岐に渡る為、分布図は主要業種の掲載に限定する。

分布図中の「★★」は重要な影響があるカテゴリ、「★」は影響があるカテゴリを示す。富士丸産業株式会社の事業活動については「★★」「★」の影響をすべて検討する。川上・川下の事業活動については富士丸産業株式会社が直接関与できないため次の事項を検討する。

ポジティブ面では川上・川下の事業でポジティブな影響の促進やネガティブな影響の緩和に富士丸産業株式会社の事業が貢献できることがないか検討する。

ネガティブ面では川上・川下の事業において重要な影響があるか影響が及ぶ地域での対応のニーズが強いカテゴリについて、取引関係の管理などを通じて緩和に貢献できるか検討する。

分析の対象となる事業活動がインパクトマッピングの業種分類に含まれる特定の事業の場合、当該事業とは無関係なインパクトカテゴリについては検討しない。

②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）

・川上事業

インパクトカテゴリ	川上の事業											
	【 2512 】 金属製タンク、貯槽及び容器製造業		【 2812 】 流体動力装置製造業		【 2813 】 その他のポンプ、圧縮機、タップ及び弁製造業		【 4100 】 建築工事業		【 4659 】 その他機械器具卸売業		【 4669 】 廃棄物・スクラップ及び他に分類されないその他の製品の卸売業	
	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ
水（入手）			★		★							
食料												
住居							★★					
健康・衛生							★	★			★	
教育												
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー							★	★				
移動手段												
情報												
文化・伝統								★				
人格と人の安全保障								★				
正義												
強固な制度・平和・安定												
水（質）		★		★		★		★		★		★
大気		★		★		★		★		★		★
土壌				★		★		★				
生物多様性と生態系サービス								★		★		★
資源効率・安全性		★		★		★		★			★	
気候		★		★		★		★★		★	★	★
廃棄物		★		★		★		★★		★	★	★
包括的で健全な経済	★		★		★		★		★			
経済収束							★				★	

川上企業としては、当社の取扱商材であるポンプや貯槽の商社やメーカー、及び工事の際の協力企業である建築業者、その他浄化作業等を行う際の薬剤を取り扱っている商社が該当している。ポジティブインパクトとしては、『水（入手）』『住居』『健康・衛生』『雇用』『エネルギー』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』『包括的で健全な経済』『経済収束』が確認された。

水関連の環境を改善・再構築するポンプ・装置の製造および設置工事は『水（入手）』『住居』『健康・衛生』『エネルギー』において、ポジティブインパクトは特に大きいと考えられる。

一方で、ネガティブとしては『健康・衛生』『雇用』『エネルギー』『文化・伝統』『人格と人の安全保障』『水（質）』『大気』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』について確認された。設備の製造・設置工事過程、及び卸売業における製品輸送過程等で排出される汚染物質、廃棄物による影響が大きいものと見受けられる。当社としては、適切な環境対応を実施しているポンプメーカーや建築業者との取引を拡大することで、ネガティブインパクト縮小を図っている。

・当社の事業

インパクトカテゴリ	同社事業															
	【 3311 】 金属製品修理業		【 3319 】 その他の機械器具修理業		【 3320 】 産業用機械器具設置業		【 3900 】 浄化活動及びその他の廃棄物管理業務		【 4321 】 電気設備工事業		【 4390 】 その他の専門工事業		【 7730 】 その他の機械器具・有形財賃貸・リース業		【 7120 】 技術試験・分析業	
	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ
水（入手）	★		★		★		★									
食料																
住居									★★		★★				★	
健康・衛生							★	★							★	
教育																
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★★	★
エネルギー									★							
移動手段																
情報									★							
文化・伝統																
人格と人の安全保障																
正義																
強固な制度・平和・安定																
水（質）	★		★		★		★★	★								
大気	★		★		★		★									
土壌	★		★		★		★	★								
生物多様性と生態系サービス	★		★		★		★★	★								
資源効率・安全性	★★		★★					★					★		★	
気候	★		★		★			★								
廃棄物	★	★		★		★	★★	★		★		★		★		★
包括的で健全な経済	★		★		★								★			
経済収束													★			

当社の事業におけるインパクトについては上記の通りであり、『水（入手）』『住居』『健康・衛生』『雇用』『エネルギー』『情報』『水（質）』『大気』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』『包括的で健全な経済』『経済収束』についてポジティブインパクトが確認された。

確認された理由としては下記４点が考えられる。

① ポンプの設置は環境の改善・再構築に直接影響する事業であること

② レンタル・リースという資源効率を高める事業であること

③ 設備の使用期間の長期化に繋がる修理業も行っていること

④ 技術試験・分析を行い、自社/他社の製品・サービス品質等の向上に貢献していること

以上により、同社は多様な面でポジティブインパクトを生み出し続けている。なお、電気設備工事業の『住居』『エネルギー』『情報』については当社の事業内容上関連性は薄いと考えられるため、今回は分析対象外としている。

インパクト拡大の要因は、自社の強みを「他社では取扱いの少ない大型ポンプまでを幅広く取扱える点」と、「設計から設置・配管工事、メンテナンスまでを行う一貫体制」と明確に位置付け、大型ポンプにも対応した試験設備を導入する等、経営資源を強みの伸長に集中させてきた点にあると考えられる。そのような方向性のもとで６０年以上も多種多様な工事に取り組み、PDCA サイクルを回して技術と品質の改善に努め続けた結果、模倣困難性の高い技術力・ノウハウが獲得できたことで、独自のポジティブインパクトの創出・拡大が成される体制が構築されている。

一方で、ネガティブインパクトについては、『健康・衛生』『雇用』『水（質）』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』の分野で確認された。ポンプの設置・修理を行

う際の廃棄物の発生、及び浄化処理を行った際に除去した有害物質による影響が主な理由である。廃棄物については適正処理や環境関連の法令順守等を行っており、浄化処理対象の有害物質は土壌汚染水処理・濁水処理・中和処理設備により再利用が可能な程の処理が成され、ネガティブインパクト縮小が図られている。

・川下の事業

インパクトカテゴリ	川下の事業											
	【 2812 】 流体動力装置製造業		【 2813 】 その他のポンプ、圧縮機、タップ及び弁製造業		【 3900 】 浄化活動及びその他の廃棄物管理業務		【 4290 】 その他の土木工事業		【 4322 】 配管・暖房・空調設備工事業		【 7110 】 建築・エンジニアリング業及び関連技術コンサルタント業	
	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ
水（入手）	★		★		★				★★			
食料												
住居									★★		★★	
健康・衛生					★	★		★	★		★	
教育												
雇用	★	★	★	★	★	★	★★	★	★	★	★★	★
エネルギー												
移動手段												
情報												
文化・伝統								★				
人格と人の安全保障												
正義												
強固な制度・平和・安定												
水（質）		★		★	★★	★		★				
大気		★		★	★			★		★		
土壌		★		★	★	★		★				
生物多様性と生態系サービス					★★	★		★				
資源効率・安全性		★		★		★		★			★	
気候		★		★		★		★				
廃棄物		★		★	★★	★		★		★		★
包括的で健全な経済	★		★				★★					
経済収束							★★					

川下の事業におけるインパクトは上記の通りであり、『水（入手）』『住居』『健康・衛生』『雇用』『水（質）』『大気』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』『資源効率・安全性』『廃棄物』『包括的で健全な経済』『経済収束』におけるポジティブが確認された。

独自の技術を持ち、レンタル・設置工事・修理・浄化処理・調査・分析等の幅広い業務に対応できるがゆえに、全国の多様な企業から引き合いがあるためインパクト範囲も大きいと考えられる。

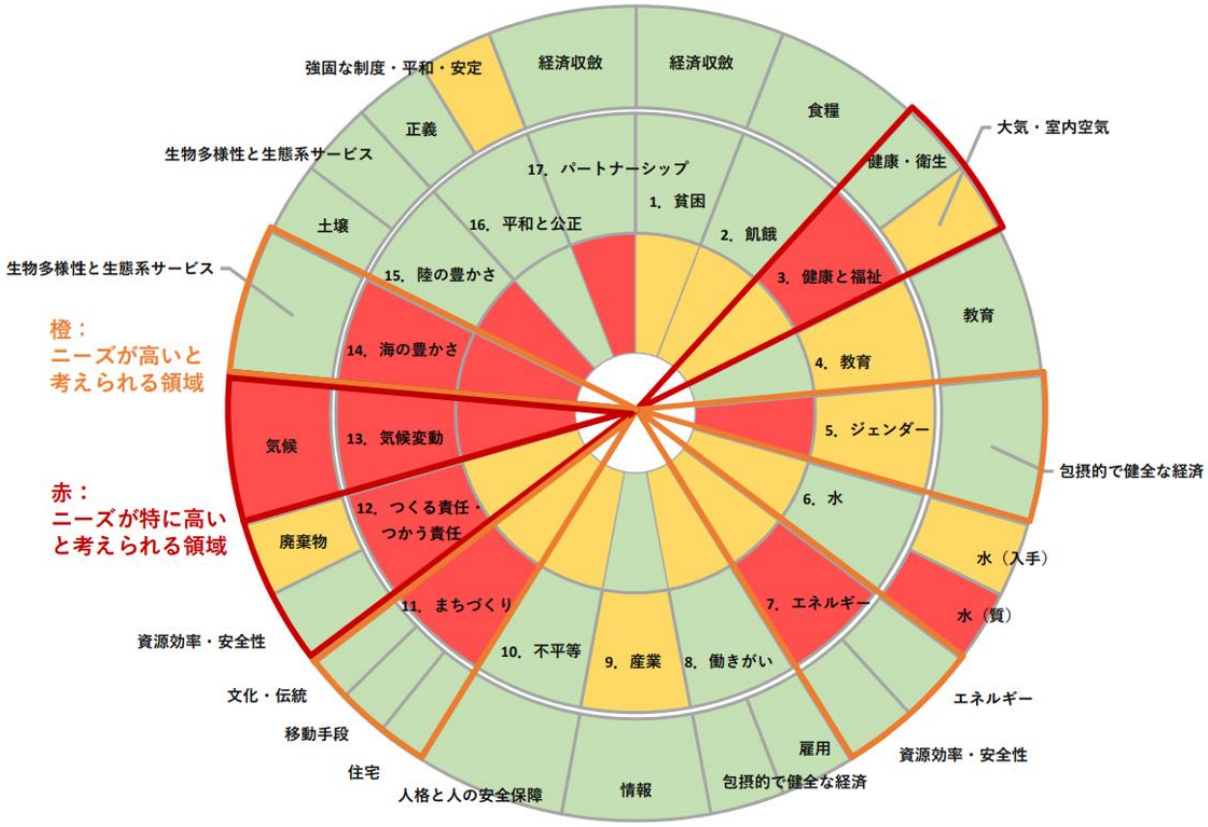
ネガティブインパクトについても、環境におけるものを中心に広い範囲で確認ができるが、当社のポンプを利用すること自体が直接的に土木工事業の『水』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』等のネガティブインパクト縮小に繋がるとともに、前述の通り、リースと修理業務によりユーザーやポンプメーカーの『資源効率・安全性』のネガティブインパクトの縮小にも貢献しており、当社が取引拡大していくことで更なる縮小を進めていく。

尚、特に重要なインパクトカテゴリと対応するＳＤＧｓのゴールは、下記の通りである。
※対応するＳＤＧｓのゴール

③国内のインパクトニーズ

環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」における国内のインパクトニーズは下記の図によって表される。特に取り組むべき SDGs を赤色、取り組むべきであるが不十分な SDGs を黄色、その他を緑色としているものである。

名古屋銀行が特定した富士丸産業株式会社のインパクトと対応する SDGs のゴール「3、6、9、11、12、14」について、赤色もしくは黄色のゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズとの整合的である。



5.　測定するＫＰＩ

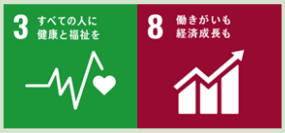
①　顧客ニーズに適したポンプの提供・修理による環境保全・地域社会への貢献（ポジティブ拡大）

項目	内容
インパクトの種類	経済面でポジティブインパクトを拡大、環境面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「水」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「廃棄物」「包括的で健全な経済」「経済収束」
関連するＳＤＧｓ	
対応方針	生産性向上による一層の業務拡大
ＫＰＩ	・生産性向上により、従業員一人当たりの売上高を3%増加させる（実績開示） ・大型発電機の導入により災害リスクを低減し、サプライチェーン維持に努める（内容報告） ・修理業務に関する受注件数を10%増加させる（実績開示） ・公共・インフラ関連の受注件数を10%増加させる（実績開示）

②　技術力向上に向けた人材の確保・育成（ポジティブ拡大）

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連するＳＤＧｓ	
対応方針	平等な人材の雇用・育成の促進
ＫＰＩ	・新卒・中途関係なく、毎年１名以上の新規採用を行う（実績開示） ・業務関連の工事技士・管理技士等の免許取得者数を10名から13名にまで増加するよう支援策を整える（実績開示）

③　労働環境の整備（ネガティブ縮小）

項目	内容
インパクトの種類	社会面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「健康・衛生」「雇用」
関連するＳＤＧｓ	
対応方針	平等で生き生きとした働きやすい労働環境・雇用環境整備
ＫＰＩ	・年間の労働災害件数0件を維持する（実績開示） ・従業員一人当たりの月間平均残業時間を現状の10時間以下を維持する（実績開示）

6.　インパクトの管理体制

富士丸産業株式会社は藤岡代表取締役を中心としてサステナビリティ経営充実の為の施策を各事業部及び法人本部が連携してＳＤＧｓの施策を検討・実施・検証する体制が整っている。

めいぎん PIF におけるインパクトについては、藤岡代表取締役が中心となり、管理・達成へ向けた施策を実施する。

インパクト管理者

最高責任者	代表取締役　藤岡　稔丸

7.　モニタリング方法

富士丸産業株式会社に対するめいぎん PIF のモニタリングは、インパクト管理者と名古屋銀行の担当者（法人営業部サステナビリティ推進担当及び営業店担当者）により年 1 回以上の協議を通して実施する。年 1 回以上の協議は、下記のプロセスで行われる。

項目	内容
1. 内容報告・実績開示	設定した KPI の達成度を確認する。
2. 検証・精査	達成度について開示された情報を名古屋銀行が確認する。
3. 修正の検討	達成度・進捗度を検証し KPI の修正を検討する。
4. 追加の検討	形骸化を防ぐ為、KPI の追加や削除を検討する。

名古屋銀行は上記のプロセスにおいて、自行のサポート及びアドバイスを実施する。また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センターに対し、包括的な年次レビューを受ける。

8.　総括

富士丸産業株式会社の事業内容及びインパクト調査の結果、手がける事業それぞれにポジティブ及びネガティブな影響を確認した。富士丸産業株式会社が KPI 達成を目指すことで社内、地域社会及び地球環境全体への大きな貢献が想定され、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」、ＥＳＧ及びＳＤＧｓの観点からも十分な適合性を確認した。